

高知大学教職大学院、「第1回土佐の皿鉢ゼミ」を開催

8月29日、「第1回土佐の皿鉢ゼミ」（主催：高知大学大学院総合人間自然科学研究科専門職学位課程教職実践高度化専攻（教職大学院）、後援：高知県教育委員会、高知県市町村教育委員会連合会）が朝倉キャンパスで開催され、約130名が参加しました。

本ゼミは、教職大学院生（学部卒院生、現職院生）の実践研究の中間発表を中心として、専任教員（研究者教員、実務家教員）、県下の教育委員会及び小・中学校の校長、教諭等学内外の教育関係者が一堂に会して、教育課題を多様な視点や専門的な視座から分析し、課題解決のための効果的な実践を探求することを目的として開催されました。

ゼミでは、柳林信彦専攻長、櫻井克年学長の挨拶のあと、文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室の高田行紀室長から「教職大学院の意義と未来」と題して講話がありました。高田室長の講話では、国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書及び課題に対する対応策、教職大学院への期待等について語られました。

その後、教職大学院生の実践研究ポスター発表が行われ、学校経営計画の効果的な運用の方策、道徳授業の在り方、発達障害の有効なチーム支援などについて討議されました。また、コース別討論会（学校運営コース、教育実践コース、特別支援教育コース）においては高知県の教育課題について討論され、全体討論会で共有されました。参加者は、教育課題の対応及び教職大学院の実践研究等に理解を深め、教育・研究の充実を促進する機会となりました。



開会挨拶する柳林専攻長



挨拶する櫻井学長



講話する高田室長



会場の様子



大学院生のポスター発表（教育実践コース）



大学院生のポスター発表（特別支援教育コース）